

LD アイザイム				355000	
LD アイ				担当部署	
				一般	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→生化学→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		特記事項なし			
検査受付時間		8 : 15～16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		該当なし			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	他材料	10 青	分離剤		
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		1) 採取容器違いの検体 2) バーコードラベルの貼られていない検体 3) 量不足 4) 粘性のある検体			
保管検体の保存期間		2℃から8℃冷蔵保存 14 日（追加検査については検査室に要問合せ）			
検査結果・報告					

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		1～2 日				
生物学的基準範囲		LD1 20.0～31.0% LD2 28.8～37.0% LD3 21.5～27.6% LD4 6.3～12.4% LD5 5.4～13.2% EX 一般 215：タイタン ジェル S－LD 試薬				
臨床判断値		該当なし				
基準値					単位	%
共通低値		共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
設定なし		設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値		高値	該当なし			
		低値	該当なし			
生理的変動要因		1 型は新生児期には低く平均値が成人の下限値くらいであるが、漸増して数ヶ月で対成人比が約 1.2 になり以降は漸減して成人値になる。 5 型は新生児、乳児期には対成人比約 0.8 であるが、以降は漸増して学童期には成人値になる。				
臨床的意義		乳酸脱水素酵素（Lactate Dehydrogenase, LD, EC 1.1.1.27）は、L-乳酸が脱水素されてピルビン酸になる反応を可逆的に触媒する酵素である。LDはMとHの二つの異なったサブユニットの組み合わせからなる四量体で、M4, M3H, M2H2, MH3, H4 の 5 種類のアイソザイムが構成されている。電気泳動において移動度が異なるのは、これらサブユニットの等電点の違いによるもので、移動の速いフラクション（陽極側）から、LD1（H4）, LD2（H3M）, LD3（H2M2）, LD4（HM3）, LD5（M4）と呼ばれている。LDは心臓、赤血球、白血球、肝臓、骨格筋などに分布し、Mは主に肝または骨格筋に存在するサブユニットで、Hは主に心筋に存在するサブユニットである。LDアイソザイムの異常例として、心筋梗塞によるLD1の上昇、肝疾患によるLD5の上昇、悪性の血液疾患によるLD2、3の上昇が知られている。そのほかLDアイソザイム分画の過剰あるいは欠損、偏位を示すLDアノマリーとして、サブユニットの合成欠損あるいは低形成、遺伝的変異（バリエーション）、腫瘍産生、不活性化因子の存在、免疫グロブリンとの結合などが報告されている。 EX 一般 215「タイタン ジェル S－LD 試薬」				